

かざま うら

議会だより

新春



No.81

平成28年1月6日発行

■発行:青森県風間浦村議会
■編集:議会広報編集委員会
〒039-4502 青森県下北郡
風間浦村大字易国間字大川目28-5
TEL 0175-35-2115(FAX兼用)

- 2 ■ 議長・副議長年頭挨拶
- 4 ■ 定例会のあらまし
- 5 ■ 議会運営委員会報告
- 5 ■ 常任・特別委員会報告
 - 総務常任委員会
 - 大間原子力発電所対策特別委員会
- 7 ■ 一般質問
- 13 ■ 議会懇談会
- 14 ■ ちょっと一言・編集後記

地域と共に



風間浦村議会

議長 金森一規

新年明けましておめでとうござい
ます。

村民の皆様には、お健やかに新春をお
迎えることと、心よりお慶び申し上げま
す。

皆さまには、常日頃から村議会に対し
深いご理解とご協力を賜り、心から感謝
申し上げます。

昨年は、統一地方選挙が行われ、村民
の皆さまの信託を受け、私たち議員8名
も新たな体制で、「開かれた議会」を
モットーに、議会懇談会等を通して、皆
さんの声を聞きながら、村政の発展に取
り組んで参る所存であります。

さて、我が国における状況は、消費税
引き上げにより、国民生活も厳しくなっ
ており、中央では復調の兆しが見え始め
ているとは言えるものの、地方にまで、そ

の効果は、いまだ波及しておらず、今後
も厳しい経済状態が続くものと思われま
す。

また、日本創生会議の提言において、
「2040年までに、896の自治体が
消滅の可能性」という報道がなされまし
た。今後は、「まち・ひと・しごと創生
総合戦略」の基、生き残りをかけた正念
場を迎えているといっても過言ではあり
ません。

風間浦村におきましては、基幹産業で
ある漁業と観光業の低迷が続いており、
自主財源に乏しい本村においても、行財
政改革に取り組んでいるものの、国・県
に依存せざるをえず、国の財政施策など
に大きく左右される財政状況の脆弱さ
は、いまだ続いております。

村もやることはいっぱいあります。ひ

とつひとつ着実に進めていかなければな
りません。厳しい財政状況下にはありま
すが、財政の健全化を進めつつ村民皆様
の幸せの実現のため、バランスのとれた
村政運営が求められます。そのために
は、行政と議会が互いに協力し合い、両
輪となり、村民皆様のご協力のもと住み
やすい村づくりを推進してまいります。

本年4月には、教育振興策の一環であ
りました「風間浦小学校」が開校いたし
ます。次代を担う子どもたちが健やか
に、たくましく、そして郷土愛を育む教
育の場となることを切望いたします。

私たち議員一同、その役割と責任の重
さを常に肝に銘じ、風間浦村が豊かで住
みよいまちづくりを目指し、全力を尽く
してまいりますので、なお一層のご支
援、ご協力を賜りますよう、心からお願
い申し上げます。

結びに、今年一年、村民皆さまにとつ
て、実り多き年となりますことを心より
ご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせて
いただきます。



地域の特性に即した地域課題の解決へ

風間浦村議会

副議長 杉山 太



あけましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

平成28年の新春を迎え、村民皆様のご健勝とご多幸、加えまして今年一年が輝かしい年になりますことを心よりご祈念いたします。

昨年は、地球規模での異常気象による災害が全国各地で発生しました。本村においては、幸いに大きな災害もなく過すことができましたが、被災地の一日も早い復興と本年の無災害を願うところで

す。さて、全国的な問題であります少子高齢化、人口減少、地方の過疎化は本村においても産業や経済、そして教育や福祉また消防団や地域防災組織などにも影響を及ぼしている現状であります

各地で地方創生への取り組みが進められています。国が定める人口減少克服・地方創生の視点の一つに地域の特性に即した地域課題の解決という考え方を示しています。風間浦村における様々な課題の解決には住民皆様の貴重なご意見等が重要と思しますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私ども村議会も皆様の貴重なご意見を糧とし、村民皆様が生きがいを感じ、安心して暮らせる持続可能な村づくりのため全力で取り組む所存でございます。

今年一年の豊漁と景気が浮揚しますことを切に願いまして新年のご挨拶いたします。

議員一同、

村民の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

議員 平井 賢一

” 中嶋 茂

” 菊池 隆年

” 蛸島 巨

” 能登 勝彦

” 酢谷 一利

年頭挨拶

12月
定例議会
めらまし

条例案5件・和解案
1件・補正予算案
5件を可決



飯田浩一村長

平成27年第4回定例会（12月議会）は、12月4日から8日までの5日間の会期で開会されました。

4日は、村長提案理由、委員会報告の後、4名の議員が一般質問に登壇しました。

7日には、議案の審議が行われ1日繰り上げて閉会しました。審議された案件内容は、次のとおりです。

条例案

全会一致可決

★風間浦村個人番号の利用及び特定個人情報提供に関する条例
内容：個人番号の利用等に基づき、特定個人情報の提供に必要事項を定める。

★風間浦村税条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例
内容：村民税等の規定に個人番号及び法人番号に係る定義を規定する改正。

★風間浦村半島振興対策実施地域に係る固定資産税の特別措置に関する条例の一部を改正する条例
内容：個人番号及び法人番号に係る定義を規定する改正。

★風間浦村総合計画審議会条例の一部を改正する条例
例 賛成6・反対1
内容：委員の構成を見直すための改正。

★風間浦村住民基本台帳カードの利用に関する条例を廃止する条例
内容：個人番号関係の法律の施行に伴い、本条例を廃止する。

和解案

全会一致可決

★旧下風呂診療所破損事故に係る損害賠償の和解
内容：車両により、誤って旧下風呂診療所の玄関サッシを破損させた修繕に係る和解。

補正予算案

全会一致可決

★平成27年度一般会計補正予算

内容：3011万8千円の追加で、総額35億636万円。

歳入の主なもの

- ・国庫支出金 1232万2千円の追加（学校施設環境改善交付金、地方創生先行型交付金他）
 - ・寄附金 421万円の追加（ふるさと納税寄附金）
 - ・村債 1350万円の追加（風間浦中学校改修事業債）
- 歳出の主なもの
- ・下北半島ジオパーク構想推進協議会負担金 400万円の計上
 - ・インフルエンザ予防接種委託料 150万円の追加
 - ・風間浦中学校体育館耐震化等改修工事請負費1870万6千円の計上
 - ・財政調整基金積立金 1200万円の減額
 - ・ふるさと応援基金積立金 421万円の追加

★平成27年度国民健康保険特別会計補正予算

内容：歳出予算の内容更正で、総額3億9753万円。

歳出予算の更生内容

- ・インフルエンザ予防接種委託料 20万円の追加
- ・予備費 20万円の減額

★平成27年度簡易水道特別会計補正予算

内容：150万円の追加で、総額1億2133万7千円。

歳入

・繰入金 150万円の追加
 (一般会計繰入金)
 歳出の主なるもの

・本管漏水修理工事請負費 50万円の追加
 ・易国間浄水場配水流量計取替工事請負費 130万円の計上

★平成27年度介護保険特別会計補正予算

内容・歳出予算の内容更正で、総額3億5809万9千円。

歳出予算の更正内容

・臨時職員人件費 2万5千円の追加
 ・予備費 2万5千円の減額

★平成27年度後期高齢者医療特別会計補正予算

内容・187万2千円の追加で、総額2469万4千円。

歳入

・後期高齢者医療保険料 187万2千円の追加

歳出

・後期高齢者医療保険料負担金 187万2千円の追加



金森 一規 議長



採決の様子

議会運営

11月17日開催

(欠席委員なし)

平成27年12月定例会の運営に関する事項について審議しました。

☆定例会は

今期定例会は、12月4日招集の意向を受け、提



杉山 太 委員長

出となる案件等を勘案した結果、会期は、同日より8日までの5日間とすることになりました。

招集告示日は、11月26日、一般質問は、昨日が

通告期限で、4名の一般質問が受理されました。会議日程は、開会初日の4日は、会期の決定、

提案理由の説明、各委員会の委員長報告並びに一般質問までとし、7日よりに議案等の審議を行うこととします。

☆人事案件の提案がある場合としての表決方法は

無記名投票で行います。

☆諮問は

受理した陳情はありません。

総務常任

10月16日開催

(欠席委員なし)

村民生活課から

☆風間浦保育所指定管理業務について

平成27年4月1日現在

在入所児童数及び職員数

平成26年度決算状況

前回説明した資料の項目と違うが何故か。

行政側から

前回の資料は、指定管理者提出のもので、委員

から疑問が出されたので、今回は、役場の項目に沿って整理したものである。



菊池 隆年 委員長

・透明性をもって、備考欄の項目等も十分把握できるものにするべきでないか。

行政側から

今後は、備考欄を拡充し整理したものを提示する。

平成28年度指定管理料については、契約の前

事前の報告を求める。

11月27日開催

(欠席委員なし)

教育委員会から

☆学校施設の非構造部材等耐震工事について

事業費の村負担66%

は、財政部局と協議した



漁業後継者育成が急務（あわび採りの様子）



交流人口の拡大を図り誘客活動の強化

ものか。

答 行政側から

時期を考慮し補助申請し交付決定され、交付金以外は、全国防災事業債を申請中で、決定すれば8割は戻る。

総務課から

☆風間浦村人口ビジョン
素案について

問 委員

・佐井村で先行配分されているが、本村は何故できないのか。

答 行政側から

村としては、新たな事業ではなく、現在の事業に枝葉を付けてと考えており、行政だけ先だってもいけない。

問 委員

水産業と観光の2本柱をどう考えているのか。

答 飯田村長から

組合長等と話しながら、漁業者の声を聞いて

大発問

9月4日開催

(欠席委員なし)

☆新規制基準適合性審査の対応状況について

電源開発(株)から

6月報告後、審査会合

いく。

問 委員

今年の国勢調査における人口は。

答 行政側から

見込みで1976人で前回比488人の減。

☆風間浦村新型インフル
エンザ等行動計画につ

いて

産業建設課から

☆街路灯・防犯灯LED
化事業について



平井 賢一
委員長

は1回開催されたが、他社のPWR案件の審査が優先されており、それ以降大間の審査会合は開催されていない。

この状況を踏まえると、審査・許認可期間については、今年の11月の目標を、さらに1年程度要すると見込まざるを得ない状況で、そうした場合、安全強化対策工事の開始は平成28年11月頃、終了は平成33年12月頃となり、供給計画

上、運転開始時期は引き続き未定であるが、工事終了後の試運転を1年程度と想定すると、運転開始は平成34年頃になる。現在は、内陸部の追加地質調査を行っている。

問 委員

追加地質調査現場を、1町2村で視察し説明を受けるべきでないか。

答 会社側から

安全性に問題のない範囲で計画したい。



電源開発株式会社の報告

村政を問う！ 一般質問

◎一般質問とは、定例会（臨時会は除く。）において、議員が、あらかじめ通告して、村の施策の状況や方針について、報告・説明を求めたり質問することです。

当村議会においては、一質問者の持ち時間は1時間に制限されています。

決算書から風
間浦村が抱え
る課題につい
て



酢谷一利 議員

問

平成26年度決算書、普通会計決算収支の状況から実質収支は、5722万円の黒字、単年度収支で1170万円の赤字となり、財政調整基金積立金から550万円繰り入れ、実質単年度収支が620万円の赤字となった。平成16～25年度に遡ってみたが、各年度の実質単年度収支も赤字で、そこに財政調整基金積立金と同取崩額が投入され決算処理されていた。

(1)歳入（収入）の状況について

村税、地方交付税は4年連続で減額されている。

(2)地方債（借金）の状況について

残高の合計額28億6157万円で、今後新たに統合小学校建設事業債を借入、支払で地方債は大きく増額する。

(3)基金（預金）について

一般会計11億1465万円だが、各組合から預かりの水産業振興基金6億3504万円を除くと4億7961万円、その中で財政調整基金は7071万円。

(4)収入未済額（未収金）について

一般・特別会計合計1億6320万円と固定化、不良債務化している。

以上の状況から、今後の行財政運営について考察する。我が村は、自主財源が脆弱で地方交付税に一喜一憂、また当村は、大間原発隣接町村と

して財源依存体質が続いた。東北大震災以来の原発世論は厳しく反応、実施計画は大幅に遅滞している。今後の進展速度は・・・（期待値は外れるもの）

最大の問題は、人口が減少すること。2千人を切る村に突入することだ。人口は村の源泉であり力だ。その人口減少から確実に購買力、販売力、生産力は低下する、悪化する、この現状に手は打たれていない。必然の結果の数値が基礎データベースがあったのに、データ分析をしてこなかった結果だ。庁内にアナリストを育成しデータサイエンスを主軸に判断する。

村内経済の危機は、村そのものの危機なのだ。事実を客観的に見つめて、この村の何が成長できて、何に将来性があるのか問う。

答

平成26年度普通会計決

算は、歳入歳出差引額から翌年度に繰り越すべき財源を除いた実質収支は、黒字となっておりま

す。この実質収支から前年度の実質収支を差し引いた単年度収支は、赤字となりました。単年度収支は、当該年度において、前年度の実質収支と比較し、どれだけ黒字を増やしたか、また、減らしたかを分析するものであります。

平成26年度において



これからの財政はどうなる？

も、歳出の抑制に努めて参りましたが、地方交付税などの歳入の減少が要因となり、実質収支は減少しました。収支状況においては、黒字または赤字の判断は、実質収支をもって行いますので、平成26年度決算は黒字となります。

村の歳入は、村税などの自主財源は乏しく、地方交付税などの依存財源に頼らなければならぬ状況は、依然続いていますが、国・県補助金によ

る特定財源の確保、交付税措置が有利な起債の発行により歳入の確保に努めてきました。

また、電源立地地域対策交付金については、促進枠分は、維持運営費などのソフト事業に充当しておりますが、原発施設等周辺交付金と電力移出県等交付金は、公共施設維持運営のための基金に積立しております。

歳出では、これまでの行財政改革において、副村長の不在、職員退職者の補充を最低限にするなど人件費の抑制に努めてきたほか、風間浦診療所不良債務の解消に努め、平成20年度末約6億2000万円の不良債務を平成27年4月で全て解消しました。

一方、地方債の残高は、平成27年度末では、小学校建設事業、漁港整備負担金事業、村道整備事業の借入により33億3000万円になる見込みです。

平成27年度の地方債に



人口減少にどう取り組むべか

においても、過疎債を計画しているので12年間償還となり、この償還の7割が交付税措置されます。また、今年度末見込みによる償還金については、平成31年度の約3億8000万円をピークに減少する償還計画をたてております。

また、基金は使途に制限がない財政調整基金への積立に努めることとしていきます。

収入未済額への対策も強化し、収納対策委員会

を定期的開催し、自主財源の確保に努め、水道使用料においては、水道給水停止予告書の発行等により徴収率がアップしている状況です。

今後の行財政運営については、財源の確保、歳出の抑制を図り、平成28年度から簡易水道整備事業に取り組んでいきたいと考えております。

人口減少による少子高齢化対策も大きな課題で、2060年将来人口が750人まで減少する

と推計されています。いかに人口減少を最小限に食い止めるかは、現在策定中の地方版総合戦略の目標値を達成するため「健康で活動的な村民を増やし、活気あふれる村づくりを推進する事業」「漁協とタイアップし、漁業者などのアイデアによる海づくりや水産物のブランド化による雇用の場をつくる事業」

「村の宝である子どもの成長を支援し、村の将来を担う人づくり事業」などを推進していきます。

また、夜間人口を増やしていくため、現在実施している定住、子育て支援などの事業を検証し、さらに拡充する対策に努めます。

平成28年4月には、長年の課題でありました村内小学校3校が1校に統合し「風間浦小学校」として開校することにより、保育所・小学校・中学校がまとまり、教育環境の整備が整ったので、若い世代が安心して子供

を産み育てられる環境づくりと教育関係者の定住などに取り組み、人口減少を緩やかにと考えています。

今後も厳しい財政状況には変わりありませんが、村には、優れた人材や活用できていない資源が沢山あります。これらを村民のため生かしながら職員が一丸となり、創意と工夫による村民サービスに努めることが、村の将来に繋がるものと考えています。

風間浦村の観光といえ、これまで行政、観光協



蛸島 巨 議員

観光と漁業振興について

問

会、商工会で協力し、観光客の誘致を図ってきたが、今後どのような展開を目指すのか。

客が来ても賑わいがなければリピーターとして戻ってこないのではないかと。賑わう為には漁業が元気でなければいけないと思うが村長の考えを伺いたい。

答

県内に知名度の高い下風呂温泉があり下風呂温泉のさらなる知名度を推進し宿泊客の増加を狙い様々なイベントを行政、商工会、観光協会が一体となり開催してきた。

今年度も「ゆかい村海鮮どんぶり祭り」が開催されており今後も「鮫鱈祭り」や「布海苔採り体験ツアー」の開催にも期待を寄せている。

このようなイベント開催に対し運営に携わる職員の協力はもとより、「ゆかい村海鮮どんぶり祭り事業」には256万5000円、「ゆかい村



賑わった「2015 どんぶり祭り」



ブランド化された「風間浦鮫鱈」

鮫鱈ブランド化戦略事業」には190万円、「布海苔採り体験ツアー事業」には85万円の補助金を拠出予定である。今後は現在実施している事業をいかに多くの方々に知って頂くか重要である。様々な情報手段を駆使して「風間浦村」をPRして行く。

併せて年明けに予定されている北海道新幹線開業や中国、杭州市と青森、函館空港定期便就航へ向け外国人観光客の誘客対策を近隣市町村と連携しながら進めて参りたい。

漁業振興については「するめいか」「鮫鱈」「たこ」「うに」「やりいか」が本村の重要漁獲物である。

海面漁業生産金額の直近10年間の平均は約6億400万円となっており、平成26年の海面漁業生産額は約5億3100万円です。本村の基幹産業のひとつであり本村経済の柱となっている。

一方、本村漁業は直近10年間の生産額をみても平成19年の7億5000万円に対し、平成24年は4億4000万円と年変動が大きく安定性が得られない。特に漁獲金額1位の「するめいか」は平成21年から大きく落ちこみ、漁家経営に大きな影響を及ぼし本村経済にとって痛手となっている。

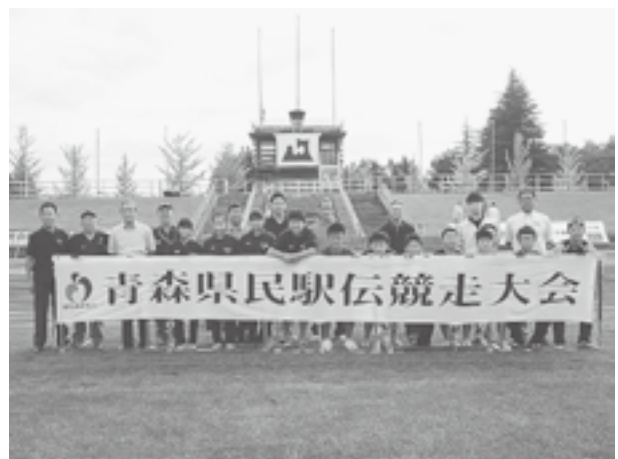
この様な状況の中で、3漁協と歩調を合わせ、水産庁補助事業である「水産多面的機能発揮対策事業」を活用し、ウニの密度管理、海藻種苗の漁場投入による藻場再生事業やワカメ養殖用の種苗生産などを実施している。

平成23年から蛇浦・易国間地区で行われているワカメ養殖については作業開始から収穫までの期間が数ヶ月であるため漁家収入の一助となることが期待され組合長会議の場で村側から推奨した。平成26年9月地域団体

一般質問

商標登録された「風間浦鮫鱈」については、近年単価が上昇傾向にあり鮫鱈漁家の収入増加の一助となっている。

今後は「風間浦鮫鱈」の「さらなるブランド化の確立」に向け関係団体と連携しながら、「風間浦鮫鱈」を起爆剤とし、漁業と観光産業の共存共栄を目指し「元氣な風間浦村作り」を推進して参りたい。



昨年の県民駅伝大会

答

昨年の県民駅伝大会当日までの練習及び準備等ほどのような体制で行われたのか、そして今年度の結果を踏まえ、来年度以降どのような取組を考えているか伺いたい。

問

県民駅伝大会への取組体制について

例年5月中に大会参加のため村長を会長とした実行委員会を組織し、監督及びコーチを選任、また事業計画、予算等について審議を行った。

実行委員会の構成は行政、教育委員会、村体育協会、村陸上競技協会、村スポーツ推進委員、風間浦中学校長及び同中学校陸上部顧問となっている。

出場選手は中学生高校生が主力であるが広く社会人選手を募るため5月下旬に毎戸チラシを配布し選手の募集と選考会の開催について周知を図った。

今年度の応募者は2名であり推薦者を含めて、7月に2回の選手選考レースを行い出場選手を決定した。

今年度は社会人5名、高校生2名中学生6名の13名であり7月から監督及びコーチの指導により17回の合同練習が実施され、8月16日にそれぞれ区間状況を把握するため

青森市で試走会を行った。

今後については当村に居住する方や当村に勤務する方、当村出身者のふるさと選手をより広く募ることで参加選手の確保に努め、実行委員会及び大会スタッフとともに競技体制の強化に取り組んでいきたい。



中嶋 茂 議員

風間浦村防災計画について

問

東日本大震災から四年半が経過しています。その後も地球温暖化による局地的自然災害、集



2015年村防災訓練



2014年心肺蘇生法訓練



2014年避難訓練

答

風間浦村地域防災計画は、災害対策基本法（昭和36年法律第223号）第42条の規定に基づき、平成23年9月に策定されており

村民が安心、安全に暮らすため、生命や財産を災害から守る防災対策は行政上最も重要であり、平成23年度より、各地区において防災訓練を実施しております。

平成27年9月26日に

中豪雨災害等が多発しています。

このように、いつ起こるかわからない自然災害。今全国的にも、国民的な重要課題となっている避難訓練について、災害は忘れた頃にいつ起こるかわからない問題です。

行政は、村民の生命、財産を守る立場から、災害に対する地域防災計画をどのように進めようとしていくのかを、伺いたいと思います。

一般質問 Q&A

「避難訓練」全地区で313人また、同日、風間浦中学校で行なわれた「防災訓練」では287人の方々が、参加されており、今後も引き続き住民の防災意識高揚のため、防災訓練を実施したいと考えております。

また、地域防災計画において避難所指定施設等についても、海抜表示看板を設置するなど、地域の避難所と避難経路を記載した津波ハザードマップを平成25年に作成しており、ひとたび大規模な災害が発生した場合には、村は全力で対応いたしますが、防災関係機関の対応だけでは限界があり、その為にも、村民一人一人が、自分の身を自分の努力によって守るとともに、地域や近隣の人々が集まり、互いに協力しながら防災活動に積極的に取り組むことが地域に必要不可欠であることから、平成25年度に、各自治会を中心として設立さ

○人口減少に対する雇用

問

人口減少対策とそれに伴う公共施設整備について



能登勝彦 議員

れた自主防災組織、平成27年度において、活動用資機材の購入を実施しております。

今後も、風間浦村においての防災活動が迅速的確に実施できるような体制確保の充実や災害時における要援護者の避難援助等に関する対策なども各関係団体とも検討・協議を重ね地域の実情に合わせ修正、整備を図りながら風間浦村の防災体制づくりを進めて行きたいと考えております。

対策

○廃校三小学校の有効利用

○役場庁舎、消防署の方向性

○桑畑温泉湯ん湯んのあり方

○あわびセンター運営方法

以上5点について風間浦村総合推進戦略会議、まちづくり検討委員会等検討しながら決定進めていきたいと答弁してきたが、今までのような協議がされ方向性を出してきたのか。

答

☆人口減少に対する雇用対策

11月27日開催の総務常任委員会において、風間浦村人口ビジョンの素案では、2060年の目標人口は1201人として

目標人口を維持する為のプロジェクトとして地方版総合戦略では「健康」「名物」「定住」「子育て」「きずな」を

☆「役場庁舎、消防分署」の方向性

平成28年4月に風間浦小学校閉校により三小学校は閉校になるが、廃校舎等の利用については下風呂小学校と蛇浦小学校は、地区の避難所に指定されているため、避難施設での用途を考慮した利用計画を図る必要がある。

蛇浦小学校は木造校舎であり、まちづくり委員からは校舎の改築が比較的容易であり、文化財の

展示や小規模な合宿が可能な施設に改築し、農業体験などによる交流人口の増加を図るアイデアが出され施策に検討されている。

易国間小学校は津波ハザードマップの危険エリアから除外されているため役場庁舎、消防庁舎の機能を果たす施設の整備を視野にいたした利用計画を図り、下風呂小学校は民間からの意見を取り入れ活用方法を取まとめる予定である。



閉校後の三校は？（写真は下風呂小学校）

☆「桑畑温泉湯ん湯ん あり方」「アワビセン ター運営方法」

桑畑温泉は、桑畑地区の方々の長年に渡る要望や桑畑小学校跡地有効利用等により建設されたことから桑畑温泉のあり方については桑畑地区の方々の意見を聞くことが肝要であるとし、平成27年10月27日「桑畑温泉に係る地域懇談会」を開催した。17名が出席され、意見の大半は「温泉を継続してほしい」という意



経営が厳しい桑畑温泉湯ん湯ん

見でした。

村としては桑畑地区の方々の意見を重く受け止めながらも従来通りの営業体制では直近3年間と同程度の年間1000万程度の赤字が見込まれるため、営業体制を縮小し経費削減を図り営業を継続したいと考えている。具体策としては、これまでの月一回の休業日を毎週月曜日休業とし、営業開始時刻を1時間遅らせて9時間営業とする。これにより年間200万

円の経費削減を見込んでいる。

赤字額増大となった大きな要因が入浴客の減少なのでホームページ等により、桑畑温泉の魅力である「眺望の素晴らしさ」を発信し、入浴客増加につなげたい。

あわび増殖センターの運営方法は、平成27年10月30日に管内三組合長会議において、あわび増殖センターの今後の利用方法について意見を伺った。三組合長とも、組合として運営していくことではないが、廃止というのは困るので行政側で運営していただきたい」という意見であった。

村としては、現在3漁協が実施している水産庁補助事業である水産多面的機能発揮対策事業が5年延長される見込みであることから、あわびセンターを活用し、藻場再生の一助となることが期待されるコンブ種苗系の生産」と、蛇浦、易国間地区で行なわれているワカ

メ養殖用のワカメ種苗系の生産も継続したいと考えている。

同センターは建設後35年が経過し、至る所で経年劣化による損傷が確認されているが、大きな改修事業は行わず、必要最小限の経費により運営していきたい。

☆地方創生に関する会議の実施状況

推進本部は6月～12月までは、月1回程度開催し、地方創生の進捗状況や推進部会、推進会議での会議内容、計画の素案などを確認している。

推進会議では5月～11月までの間に5回会議を開催した、第1回は、組織会、第2回は策定方針の協議、第3回はアンケート調査内容の協議、第4回は人口ビジョン素案の協議、第5回は総合戦略の施策の協議を行った。

まちづくり委員会は3回会議を開催した。第1回は組織会、第2回は9月30日に同志社大学社会



あわび増殖センターのこれからは

福祉学科野村ゼミ学生の地域づくりに関する懇談会、第3回の会議は、11月29日に行われ、地域振興や統合後の小学校を含めた公共施設の活用についてのアイデアなどフ

リートーク形式で行った。人口減少は進んでいくが、いかに緩やかに最小限にしていくかを地方創生に関する会議やまちづくり委員会での会議で話し合っているが、行政だけでなく漁協や地元企

業、民間が連携した施策を展開する必要がある。効率的に事業を展開していくためには、村のビジョンである総合計画を今年度策定し、村民と共通の認識を図りたいと考えている。

今年度は地方版総合戦略、次期過疎計画、そして総合計画の3つの重要な計画を策定することになる。

議会懇談会を開催しました。

12月10日から村内4地区において、平成27年度議会懇談会を開催しました。

本懇談会は、議会改革の一環として、議会活動報告を行うとともに、地域の皆さんのご意見等を真摯に受け止め、村政並びに議会活動に反映させていくことを目的として開催しました。

懇談会は、出席者が少数でしたが、様々な意見が出され活発かつ貴重な意見交換がなされました。次年度以降も工夫しながら開催する予定です。

なお、平成27年活動の概要は以下のとおりです。

【平成27年度「議会懇談会」開催状況】

開催日	開催場所	参加者数
12月10日(木)	下風呂公民館	2名
12月11日(金)	桑畑公民館	2名
12月17日(木)	中央公民館	4名
12月18日(金)	蛇浦公民館	2名



【平成27年議会活動の概要】

(1) 定例会・臨時会の開催状況

区分	会期	会期日数	審議日数	休会日	繰上日数	傍聴者数
第1回定例会	3月2日～6日	5日	3日	2日	0日	4人
第2回定例会	6月9日～10日	2日	2日	0日	0日	3人
第3回定例会	9月4日～10日	7日	3日	3日	1日	3人
第4回定例会	12月4日～8日	5日	2日	2日	1日	3人
第1回臨時会	8月17日	1日	1日	—	—	0人
第2回臨時会	5月1日	1日	1日	—	—	0人

(2) 審議件数等

区分	村長提出					議員提出		
	条例	予算・算	人事	専決処分・報告	その他	意見書	委員会報告	
定例会	29	32	5	5	8	2	23	
臨時会	1	1	1	2	3	0	0	
計	30	33	6	7	11	2	23	
審議方法	本会議即決	30	33	6	7	11	2	23
	委員会負託	0	0	0	0	0	0	0

(3) 一般質問の状況(カッコ内は、平成26年の状況)

区分	質問者数	内容件数
第1回定例会	2人(4人)	4件(5件)
第2回定例会	6人(2人)	9件(3件)
第3回定例会	5人(2人)	6件(4件)
第4回定例会	4人(3人)	5件(6件)
計	17人(11人)	24件(18件)

ちよつと一言

下風呂小学校

平成28年3月で閉校となる
小学校訪問、第3回は、下風呂
小学校をご紹介します。



平成6年4月6日、村長をはじめ
46名の参列者と全校児童80名が参加
して下風呂小学校新校舎入校式が執
り行われました。
『勇気・忍耐・協力』を校訓にし
て教育にいそしみ、21年間に渡って
この学舎から188名の卒業生が巣
立っていきました。

ちよつと一言
編集後記



そして、今年度、3名の最後の卒業
生を送り出して甲平ノ上に建つ下風呂
小学校は幕を閉じます。
平成28年3月31日、そこはかとな
い思いと感謝を抱いて、下風呂の子
ども達を育んでくれた学舎の鍵をお返
しします。

(談：村上校長・取材：酢谷)

編集後記

輝かしい新春を迎え、
新たな一年が始まるうと
しています。

「本年もかざまうら議
会だより」村民皆様に、
見やすいわかりやすい広
報と感じていただけます
ように、努力・研究して
まいります。

先月、12月定例会も滞
りなく終わり、村政は、
厳しい財政状況には変わ
りありませんが、村民の
皆様が安心して暮らせ
る、福祉の行き届いた村
づくりのため、一生懸命
頑張ります。

村民の皆様には、平成
28年が最良の年でありま
すようにご祈念申し上げ
ます。

(文：中嶋)

議会広報編集委員会

委員長 蛸島 巨
副委員長 酢谷 一利
委員 中嶋 茂
" " 菊池 隆年
" " 杉山 太

